

## 秋風の草原情緒 根子岳～四阿山

実施日 平成17年9月10日(土)  
 天候 晴れ  
 リーダー 涌井 良明  
 参加者 友近洋子、岩井康子、小池述史、福島政幸、涌井良明、島本陳重、鈴木政三

計7名

コースタイム JR東京駅6:30～6:52(あさま551)上田駅(8:34～8:45 タクシー)菅平牧場管理事務所(9:25～34)休憩(10:13～20)根子岳(11:30～38)最低鞍部(12:08 昼食 32)休憩2160m(13:00～05)四阿山(13:38～14:00)休憩(14:50～57)パルコール孺恋ロープウェー駅(15:20～30 ロープウェー)パルコール孺恋センターハウス(15:50～16:10 タクシー)万座・鹿沢口(16:40～17:09 吾妻線)高崎(18:54～58 新幹線)東京(20:00)

費用 JR・東京 上田 5,980円 万座・鹿沢口 東京 3,260円 / 高崎 東京新幹線特急券 2,400円  
 タクシー・上田 菅平&パルコール孺恋 万座・鹿沢口 4,180円(一人)  
 ロープウェー・800円

費用合計 ¥16,620

日帰りとしては、費用がかかるが夜行でなければ無理だった地域が新幹線あればこそ日帰り圏になっている恩恵を素直に感じた山行だった。

観光シーズン谷間の週末、混雑もなく上田まで1時間40分、軽井沢を過ぎる頃から曇り空が一転快晴になってくる。ウー! あつそー! タクシーで菅平最奥の牧場の管理



事務所まで入る(牧場入山料として200円/1人)根子岳への登りにかかるが殆ど夏山状態の陽射したが風は何となく秋の風情が感じられる涼しさもある。

牧場の柵が途切れると樹林帯や笹に覆われた道を辿りつつ高度を上げて行く。振り返ると伸びやかな丘陵にスキーゲレンデがいくつも虎刈りよろしく眺められる。花や木々も夏の名残と秋の始めが同居しているようで、マツムシソウやリンドウ、赤い実をつけたナナカマドそれに穂が出始めたススキも秋を伝えてくれるが、フウロやミネウスユキソウは夏のがんばりを見せているようでもある。2



時間ほどで根子岳に着く、幾組かのパーティがのんびりしている。昼には少し早いので休憩のみで四阿山に向う。直ぐに右側が切れた縁とちょっとした岩場を下から巻くと、正面に四阿山

見て最低鞍部への下りとなる、ヨーロッパのアルプを思わせる草原状の鞍部へ下り、登りにかかる前の腹ごしらえで昼食にする。風が心地よく昼寝をしたくなる誘惑を振り切って、四阿山の登りにかかる、道は今迄の雰囲気がか



りと変わりししっかりとした樹林帯になり、かなり急な登り道になる、四阿山のこの登りが当山行一番の強敵であった。一汗絞られた登りも樹林帯をぬけるとぐっと緩やかにになり、山頂に近づいた感じがする。山頂直下の木道階段を登り、本峰の小さな登りを越し、祠を回り込んで



四阿山頂(2354m)に着く。わりと狭く祠が祭られている、前は30年以上も前なのでこの様子も全く記憶になかった。展望は良いが、徐々に雲が湧き出し視界も遮られる

範囲が多くなってきている。シマちゃんが振舞ってくれた冷えた剥き身の梨を頬張り、しばし山頂の憩いタイムである。

下山は当初菅平に戻る周回コースで考えていたが、歩行時間とコースに変化をつける意味合い、更に天気予報で午後の雷雨が心配されたこともあり、群馬県側の



パルコール孺恋スキー場のロープウェー経路に変更した。14時山頂を後にそのまま通り抜ける方向へ進む、直ぐに一部ロープや鎖もある下りになり、それを過ぎ傾斜が緩くなると、後は殆ど登降のない尾根道となるが行く先には、こんもりとした山並みが見えるだけでパルコールがどのあたりかは検討がつかない。ロープウェーは16時まで、コースタイムでは70分ほどなので焦りはないが、初めて通る道は何となく先行きが気になるものである。このルートほぼ下り気味の尾根歩きであり、途中、数箇所木道や階段も設置されて、歩きやすく整備されているが、変化の少ない単調な道である。すっかり曇空になった中、見えた2個目の建物がロープウェーの駅だった。後はロープウェーでラクチンに下山、突如山の中に現れた異空間のパルコール孺恋リゾートから、タクシーを呼んで、すっかり寂しくなってしまったかつての草津・白根ルート of 玄関口、万座・鹿沢口駅へ、17:09 発の列車でトコトコと高崎へ、後は新幹線でサッサと東京へ。参加してくれた皆様お疲れ様、そして有難うございました。